

## 2018年度ユニーク卒論

社会 学部

担当教員名	野瀬 正治
論文執筆者名	香下 敦優
論文の題 (テーマ)	過労死自殺の原因の研究 ～日本と欧米諸国の労使関係の比較の視点から～
簡単な内容 (概要)	過労死問題が社会的問題となっている。その原因として、長時間労働やパワハラなどハラスメントが挙げられるが、本論文では、なぜ、長時間労働やハラスメントが起きるのかを考えた上でどのようにそれらに対応したら良いかを検討している。すなわち、日本人特有の「勤勉性」と「強い自己責任感」が過労死等に繋がっていると、また、昨今の集团的労使関係の弱体化が、この問題の是正・防止にうまく機能しておらず、特に、中小企業においては、この状況が顕著であり、個人をサポートするシステムが必要となっているとし、例えば、欧米のコーポレート・オンブズマン的機能を日本企業に導入することもひとつの方法として考えられるとしている。
推薦の理由	働き方改革関連法が本年(2019年)4月に施行される。その柱は、長時間労働是正のための36協定内容の見直し、高度プロフェSSIONAL制度の創設、および同一労働同一賃金(2020施行)などである。特に、長時間労働問題は喫緊の課題であり同法への期待も大きい。その際、なぜ、そうした問題が発生するかの検討は重要で、本論文は、その点を明らかにし、日本人の持つ「勤勉性」と「自己責任感の強さ」を指摘した点はユニークで、法的規制のみでは対応が難しいことを示すとともに、高プロ制度施行においても十分留意しなければならないことを示唆する。また、職場の実際の関係において集团的労使関係の弱まり(影響力の低下)に対して、諸外国の事例から個人を保護する制度の重要性を指摘している点も重要である。